

授業科目	道徳教育の理論と実践				単位	2		
履 修	選択	関連資格	中一種免(英語)		ナンバリング	EN24118J		
開講年次	2年	開講時期	前期	該当DP	DP1-1 DP2-1 DP4-1 DP4-2 DP4-3 DP5-1			
担当教員	杉谷 修一							
授業概要	人間社会にとって普遍的かつ本質的な課題である道徳は、学校現場において重要な教育実践として要請されている。この授業では道徳とは何かという本質的な問いに始まり、現代社会における道徳的課題を知ることから始める。次に学校教育における道徳教育の歴史的経緯と現時点での位置づけを理解する。さらに道徳教育の実践的な指導の在り方を主として授業実践の観点から身につけることを最終的な目標とする。道徳教育についての学習は学生自身が道徳的課題について深く思いをめぐらせることを基盤とし、その上で学習指導案の作成や発問・指示・評価など具体的な方法と結びつけることが求められている。							
学生が達成すべき行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 人間社会にとって道徳がもつ意味について理解できる。</li> <li>(2) 道徳教育の歴史及び現代社会における課題について理解できる。</li> <li>(3) 発達段階に応じて道徳性のあり方をとらえ、適切な指導と結びつけることができる。</li> <li>(4) 学校教育における道徳教育の位置づけを理解することができる(教育法規、学習指導要領、個別の学校教育計画などの関連性の理解を含む)。</li> <li>(5) 道徳科の授業の基礎的理解に基づく授業の実践力を身につける(指導方法、教材研究、評価方法などを含む)。</li> <li>(6) 道徳科の授業について学習指導案を作成することができる。</li> <li>(7) 模擬授業など授業実践を通じた授業改善をPDCAの観点から理解することができる。</li> <li>(8) 授業のねらい・対象特性・教材の相互関連から適切な教育方法を設定する具体的手順について、様々な授業実践例を参照しながら理解することができる。</li> <li>(9) 身近な生活や経験から道徳教育のテーマを導出し、授業研究と結びつけることができる。</li> <li>(10) 学習指導案づくりの基本を知り、各自が設定したテーマに基づいた学習指導案を作成することができる。</li> <li>(11) 自分の学習指導案に従い、模擬授業を実践することができる(模擬授業担当者のみ)。</li> <li>(12) 模擬授業を題材として討論を通じて、道徳教育への認識及び授業作り・実践への理解を深める。</li> </ol>							
達成度評価								
評価と評価割合／ 評価方法	試験	小テスト	レポート	発表(口頭、プレゼンテーション)	レポート外の提出物	その他	合計	備考
総合評価割合	0	0	50	50	0	0	100	
知識・理解 (DP1-1)			20				20	
知識・理解 (DP1-2)								
知識・理解 (DP1-3)								
知識・理解 (DP1-4)								
思考・判断 (DP2-1)			6	10			16	
思考・判断 (DP2-2)								
関心・意欲 (DP3-1)								
関心・意欲 (DP3-2)								
態度 (DP4-1)			6	10			16	
態度 (DP4-2)			6	10			16	
態度 (DP4-3)			6	10			16	
技能・表現 (DP5-1)			6	10			16	
技能・表現 (DP5-2)								
技能・表現 (DP5-3)								
具体的な達成の目安								

理想的レベル		標準的なレベル		
(1) 道徳と実践にかかわる課題を授業の中に位置づけることができる。 (2) 学習指導要領における道徳教育の位置づけを説明できる。 (3) 学習指導案の構造を理解し、学習指導案作成に効果的に活用することができる。 (4) 道徳の授業実践にかかわる多面的な知識を習得し、模擬授業の形で効果的に実践できる。		(1) 道徳と実践にかかわる基本的課題を理解できる。 (2) 学習指導要領における道徳教育の位置づけを説明できる。 (3) 学習指導案の基本的な構造を理解し、学習指導案作成に活用することができる。 (4) 道徳の授業実践にかかわる基本的な知識を習得し、模擬授業の形で実践できる。		
授業計画				
進行	テーマ・講義内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習)	予習・復習時間(分)
1	テーマ: 道徳とは何か 事例を手がかりとして、道徳とは何かという本質について理解する。	講義	自分の教育経験を振り返って道徳問題を考察する。	30
2	テーマ: 道徳教育の歴史的展開 これまでの道徳教育の歴史を知るとともに、現代社会における重要な道徳的課題について理解する。	講義	復習を通じて授業内容の定着を図る。	30
3	テーマ: 道徳性の発達 子どもの道徳性の発達に関する主要な理論について理解する。	講義	復習を通じて授業内容の定着を図る。	60
4	テーマ: 学校教育における道徳教育の位置づけ 教育法規並びに学習指導要領における道徳教育の位置づけについて理解する。	講義	復習を通じて授業内容の定着を図る。	60
5	テーマ: 学校現場における道徳教育の位置づけ 第4回で学んだものがそれぞれの学校現場の実情や課題に応じて展開する様子を、学校教育計画や道徳指導計画を通じて理解する。	講義	復習を通じて授業内容の定着を図る。	60
6	テーマ: 授業としての道徳教育(1) 学習指導案の構造 道徳科の学習指導案の役割およびその基本的構造を学ぶ。	講義	復習を通じて授業内容の定着を図る。	30
7	テーマ: 授業としての道徳教育(2) 教材研究 読み物教材や実物教材、データの読み取りから動画の活用まで多様な教材の特徴を知り、教材研究の基本を身につける。	講義	復習を通じて授業内容の定着を図る。	30
8	テーマ: 授業としての道徳教育(3) 指導方法 授業の主題・児童生徒のあり方・教材を有機的に結びつけるものとしての教育方法の意義を知り、基本的な方法論を理解する。	講義	復習を通じて授業内容の定着を図る。	30
9	テーマ: 授業としての道徳教育(4) 授業の実践技術 表情、発声、発問、指示、板書など教師としての基本的な授業実践に関する技術を理解する。	講義および演習	学習指導案のテーマと教材選定を行う。	30
10	テーマ: 授業としての道徳教育(5) 主題設定 授業の根幹である主題の意味を理解し、(1)から(4)までの内容が主題を焦点として展開する過程を理解する。	講義および演習	学習指導案のテーマと教材選定を行う。	30
11	テーマ: 道徳教育における学習評価 道徳教育における学習評価の特徴を学び、具体的な評価のあり方並びにその活用方法について理解する。	模擬授業	学習指導案の作成を行う。	60
12	テーマ: 学習指導案を作ってみよう(1) これまでの学習内容を踏まえ、学生が各自で学習指導案を作成し、講義内で簡単な添削やアドバイスをを行う。対象学年・主題・教材までを対象とする。	模擬授業	学習指導案の作成を行う。	60

13	テーマ:学習指導案を作ってみよう(2) 前回の内容について、1時間分の授業展開を作成する。講義内で簡単な添削やアドバイスを行う。	模擬授業	学習指導案の作成を行う。	60
14	テーマ:模擬授業と振り返り(1) 希望者による模擬授業を行い、児童・生徒役からの感想や意見をもとに、振り返りを行う。また授業実践者・児童生徒役全員で討論を行う。	模擬授業	学習指導案の作成を行う。	60
15	テーマ:まとめ 授業実践の振り返りを授業改善のPDCAとして活用できることを理解する。また授業全体まとめを行う。	講義	学習指導案を完成させる。	90分
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
理解に必要な予備知識や技能	これまでの学校や家庭でのしつけ、教育経験や公共の場における規範状況などを手がかりに授業へと導入する。日本の教育における道徳教育の位置づけを理解する際には、教育法規や学習指導要領の文言をある程度具体的イメージとしてとらえる力が必要となる。また、学習指導案の作成においては、ねらいを教材や方法の形で具体化する発想力が大切となる。			
テキスト	文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成 29 年告示』 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編 平成 29 年告示』			
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	参考図書については授業中に指示する。実際に教育現場で用いられている学習指導案、学習指導要領開設(特別の教科 道徳編 平成 29 年 7 月)、その他パワーポイント資料を配付・提示する。また各自治体の学習指導案データベース(福岡県教育センターの「指導案データベース」など)等も適宜紹介する。			

授業以外の学習方法・受講生へのメッセージ	まずは道德の問題を自分の課題としてとらえ直す必要がある。道德のテーマについて考察を深めずに、借り物のテーマで道德の授業を作ってはならない。初めは未熟であっても、自分の経験・思考・教育的ねらいを通して学習指導案を作ること、実践としての道德教育に関する力量を高めて欲しい。 模擬授業は人数に限りがあるため、積極的に希望して挑戦して欲しい。授業外の準備に関する負担は大きい、その分得られるものも大きい。
達成度評価に関するコメント	レポート(学習指導案)および模擬授業については授業中に指示する。